

Title	TALK1 : メルカリの未来をつくる研究開発を
Author(s)	高橋, 三徳
Citation	ELSI VOICE. 2022, 3, p. 4-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/88522
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

メルカリの未来をつくる

研究開発を



高橋 三徳 (たかはし みさと)

mercari R4D Manager ※1

2007年に株式会社Speee創業、取締役就任、2010年楽天株式会社入社、国際版の開発や市場アプリの開発をリード。2011年株式会社スポットライトCTOに就任、2013年に楽天株式会社へ売却、退社後、スタートアップの支援や大手企業のコンサルティングを行う。2017年8月にメルカリに入社。2019年より、研究開発組織R4D全体を率いた。

R(=Research)と4つのD

(=Design, Development, Deployment,

Disruption)を掲げて

メルカリ※2についてはご存じの方も多いたと思います。我々は新たな価値を生み出す世界的なマーケットプレイスをつくることをミッションとして、アプリ等のサービスの開発と運営をしています。具体的には、一般の方々が簡単に中古品の売買を行える CtoC※3のマーケットプレイスを運営しています。2013年7月にサービスを開始しまして、2021年2月現在1,657万人※4の方々にご利用いただいています。

メルカリではメルペイというサービスも行っていきます。これはメルカリのアプリ内で使えるスマホ決済サービスで、いろんなQRコード決済サービスがある中で、メルペイの最大の特徴はメルカリで得た売上金を使って決済できるお店があるということです。最近には前払い機能とかいろんな機能やサービスもリリースしています。技術的なところでは、AI出品や写真検索といったAI技

【※1】所属とプロフィールは、イベント開催当時のもの。

【※2】
<https://about.mercari.com>

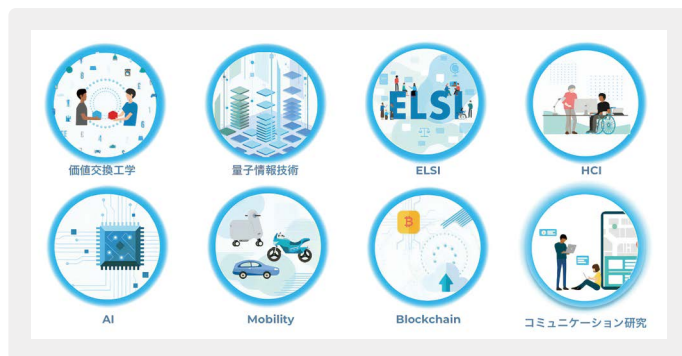
【※3】Consumer to Consumer=個人間取引

【※4】2022年4月現在2,044万人(連結)

術を活用した機能も実装しています。これは写真を撮るだけで自動的にその商品の情報を認識して、大体の金額等も自動的に入るというような機能や、欲しい商品の写真を撮るとその写真から似たような商品を探せるといった機能です。

さて、mercari R4D^{※5}はメルカリの未来に向けた研究開発を行う組織として、2017年12月に設立されました。名前のR4Dというのは、Research for Design Development Deployment Disruption、つまり研究（Research）に加えて、設計（Design）、開発（Development）、実装（Deployment）、そして時には破壊するぞ（Disruption）という意味合いを込めてつけられました。ところがこの名前がなかなか浸透せず、ぜひこの機会にR4Dがメルカリの研究開発部隊だということを認識していただければと思っています。

●資料1:mercari R4Dの主なりサーチエリア (mercari R4D提供)



多彩な研究開発を実践

研究開発については、アドバイザリーボードとして外部の研究者にも入っていただいて、我々のミッションである新たな価値を生み出す世界的なマーケットプレイスをつくるためにどうすればよいかを四半期ごとにじっくり議論しています。実は阪大からもオブザーバーとして岸本充生先生に入っていたことがあります。

【※5】
<https://r4d.mercari.com>

研究開発の具体例をいくつか紹介しますと、まずは、次世代の移動手段として poimo (ポイモ) ^{※6} というものが昨年 (2020 年) メディアに出ました (資料 2)。これは東大の川原圭博先生の研究室と一緒にやってきた共同研究の成果で、空気で膨らませて持ち運べる軽くて安全な次世代型の乗り物です。写真では中に金属のフレームがあるように見えますが、実は空気だけでこの構造が支えられているのが特徴です。今いろんなバリエーションを考えていまして、将来は移動手段としてだけでなく配送にも使えるロボットにしていこうと考えてもいます。

●資料2:poimo (mercari R4D提供)



また、ブロックチェーン^{※7}の領域の研究にも取り組んでいます。mercari X^{※8}というもので、法定通貨ではなく「メルコイン」という社内で発行した独自の仮想通貨を用いてメルカリアプリを展開する実験を行っており、暗号技術を応用したブロックチェーン時代のメルカリの新たな可能性を構想しているところです。

それから昨年末にプレスリリースさせてもらった共同研究に、メディアアーティストの落合陽一先生をヘッドとするピクシーダストテクノロジーズ (株) と実施した、視覚障がい者を対象とした調査^{※9}もあります。この研究では視覚障がい者の方々がEコマースサイトやインターネットサービスをどんなふうに使っているのかを調査、発表させていただきました。これが意外とおもしろくて、目の見えない方でもインターネットサービスをわりと不自由なく使って、

【※6】乗るポーズをとるだけで車体や車輪が膨らみ、空気を抜けば折り畳むことができる風船構造をした乗り物。

【※7】二者間の取引を効率的かつ検証可能で恒久的に記録することができる公開取引台帳として2008年に発明された。この技術によってビットコインなどの暗号通貨(仮想通貨)が登場、銀行などの管理者なしに利用者同士がネットワーク上で直接取引できるなど、さまざまな分野で進展が見られるようになった。

【※8】<https://R4D.mercari.com/blog/20200529/blockchain-update2020/>

【※9】<https://www.axis-mag.jp/posts/2020/12/315358.html>

いろんな買い物をしていることがわかりました。

ちょっと変わり種としては、量子情報の研究もしています。実は mercari R4D の発足当初から、量子情報は将来のインターネットのインフラ、コンピューティングのインフラとして重要だろうということで研究開発を進めているところです。これは大きくは二つ、量子インターネットの研究開発と量子コンピューター関連の研究開発をしています。中でも量子インターネットに関しては、我々だけでやることではないので、QITF^{※10}という団体を立ち上げて多くの研究者に入っていただいて進めています。

また、2020年1月から東京大学と立ち上げた「価値交換工学」の研究開発^{※11}は、立ち上げ直後からコロナ禍で大変な状況ではありますが、価値の分析、価値生成、価値交換というテーマはメルカリにとっても重要ですし、社会にとってもインパクトがあるだろうということで、これも継続しています。以上、もしご興味あればメルカリのサイト等を見ていただければと思います。また、mercari R4D の YouTube チャンネル^{※12}でもいろんなコンテンツをお届けしていますので、よかったらご覧ください。

【※10】Quantum Internet Task Force=量子インターネットタスクフォースの略。
https://about.mercari.com/press/news/articles/20210531_qitf/

【※11】https://about.mercari.com/press/news/articles/20191210_R4D/

【※12】<https://www.youtube.com/channel/UCWFpVwpjL1rhSX-GxpejKw>